

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 18章 15-17節＞

1 (15) イエス様の弟子たちはなぜ叱ったのか？

「叱った」は「非難する、怒鳴りつける」とも訳せ、「尊敬する、値をつける＝価値あり」の逆を意味する語です。ルカは「イエスに触れていただくために」「乳飲み子までも」と記しています。弟子たちは「赤ん坊に理解は無理。もし泣き出したらどうするんだ」とでも思ったのでしょうか？ いずれにせよ、乳飲み子はイエス様の話を聞く資格はない存在と思ったことは確かです。しかしイエス様は違ったのです。

2 (16) イエス様の応答から分かることは？

弟子たちがそのように思った乳飲み子をイエス様は、「わたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである」と言われました。弟子たちとは完全に逆で、イエス様は「乳飲み子は自分のそばに居ていい価値ある存在なのだ」と示されたのです。なぜそのように思われたのでしょうか？ 「神は御自分にかたどって人を創造された」(創世記 1:27)からです。それ故に全ての人は神様にとって大切な存在なのです。人の価値をここから考えるか、それとも私たちが自分で考えつく価値から考えるかで全ては違ってきます。聖書の信仰者とは、神様が思われた内容で他者も自分も考える所に立って生きることによって決めた者です。その時、他者を怒鳴りつけず、どんな人も価値ある存在なのだと考えて生きられるようになるのです。もちろん、そこに自分も入れています！

3 (17) 子どものように神の国を受け入れるならそこにいれるとは？

「神の国」(16:17)が突然出て来、将来の天国のことを考えるかもしれません。しかしルカ (イエス様) は 17:20 以来 18:30 まで、ずっと神の国について語っているのです (17:20-18:30 まで)。「神の国 (バシレイア：支配)」とは、イエス様が「**実に、あなたがたの間にあるのだ**」(17:21)、「**この世ではその何倍もの報いを受ける**」(18:30)と言われた、この今の人生から始まり出すものなのです。まとめるなら、①今日学んだ「神様はどんな私たちをも価値ありと考えて下さっているのだ」という考え方にしっかり立ち、②イエス様の十字架の死と復活によって示された私たちの罪の赦しに感謝しつつ、③完成した神の国の希望を持ちながら生きる。その時に、パウロが主を証しする苦難の人生の中で語った言葉 (フィリピ 4:11b 以下) も理解できるのではないのでしょうか。